

<指導例>

| 扱い | 対象 | 区分 | 目標 | 活動内容・支援 | 教材・教具等 |
|--------------|----------|------------------|------------------------|--|-------------------------------------|
| 教育活動全体を通じて指導 | 知的障害 | 6 コミュニケーション (国語) | ・休み時間に遊んだことを話す | ◎活動内容, ○支援 ◎「何」をして遊んだか, 「誰と」遊んだか, などを話す ○うまく話せない時は写真等を見せ, 選択肢から選ぶようにする | ・遊具や遊び道具の写真 ・友だちの顔写真 |
| | 自閉症・情緒障害 | 2 心理的な安定 (休み時間) | ・友達とルールを守って, エアホッケーをする | ◎「ホッケーしよう」と友達を誘う ◎5回勝負する ◎負けたら交替して順番を待つ ○ルール等を書き, 事前に読むよう促す | ・段ボールで作ったエアホッケーのコーナー |
| | 肢体不自由 | 5 身体の動き (給食時) | ・こぼさないように気をつけて食べる | ◎すくいやすいような自助具を使って食べる ○左手で腕を押さえるように促す | ・曲がったスプーン ・すくいやすい皿 ・滑り止めマット |
| 時間における指導 | 知的障害 | 6 コミュニケーション | ・単語をはっきりと言う | ◎口や舌の運動をする ◎一音ずつ区切って言う ◎ゲームで大きな声が出る ○楽しんで取り組めるように配慮する | ・口の運動カード ・身近な単語の絵カード ・さいころゲーム |
| | 自閉症・情緒障害 | 2 心理的な安定 | ・したらよい行動を考えて話す | ◎絵カードの登場人物の行動に注目し, 状況を判断する ◎どうすると良いか考えて話す ○現実に即した内容に留意し, 話し合う | ・ソーシャルスキル絵カード ・ワークシート |
| | 肢体不自由 | 5 身体の動き | ・独歩の距離が15メートルに伸びる | ◎足首のストレッチをする ◎校内オリエンテーリングで目的地まで, できるだけ一人で歩く ○楽しんで取り組めるように配慮する | ・予定ボード ・行き先カード ・スタンプ等 |

Q4-15 児童生徒のコミュニケーション能力を高めるための工夫を教えてください

特別支援学級には, 「話し言葉を獲得していない」「話せる言葉が少ない」「発音が不明瞭でよく理解できない」「うまく伝わらないのでイライラしている」「吃音がある」「家庭では話すのに, 学校ではほとんど話さない(選択性かん黙)」など, さまざまなコミュニケーションのつまずきのある児童生徒が多くいます。

話し言葉にこだわらず, 指さし・身振りサイン・絵や写真・シンボル・文字・機器など有効と思われるさまざまな手段を講じて, コミュニケーションを図り, 言語理解力を高め, 意思の表出を促すことが大切です。

その際, 教師も話し言葉と共に身振りサインなどの手段を使用し, 理解を促すと共に見本を示していくことが求められます。最近は本人の状態にあったコミュニケーションブック(※)やVOCA(ボカ:音声出力機器)等も多く活用されています。

また, 文字を習得することで, 言葉の理解が進んだり, 正しい発音を習得することもあります。なによりも, 児童生徒の伝えようとする気持ちを受けとめ, 的確に答えることが必要です。かん黙のある児童生徒には無理に話をさせることがないように配慮することが必要です。

参考文献

(22) (23) (24)

※コミュニケーションブック: 本人が受け止め理解できる絵カードや単語等を記載し, 要望に応じて使う冊子。

<指導例>

| 対象 | 指導場面 | 目標 | 活動内容・支援 ◎活動内容, ○支援 | 教材・教具等 |
|-----------------------|----------|--------------------------|--|---------------------------|
| 知的障害 発語が不明瞭 | 休み時間 | ・発語したことばが相手に伝わることを経験する | ◎うまく伝わらない時は50音表をさして示す ○楽しい雰囲気ですすように配慮する | 50音表 (携帯型) |
| 自閉症・情緒障害 自発語が少ない | 授業中 | ・コミュニケーションシートで要求を教師に伝える | ◎文やマークを指し「トイレに行ってもいいですか。」と言う ◎したい活動や文を指し、「○○してもいいですか」「手伝ってください」「できました」等を示す ○可能な場合は要求に応える | コミュニケーションシート (机に貼っておく) |
| 選択性緘黙 交流学級で話さない | 交流学級での授業 | ・号令や決まった問いかけをVOCAを使い表現する | ◎当番の時「起立」等のスイッチを押す ◎「はい」「いいえ」「ありがとう」「ごめんさい」などの場所を押す ○クラスが静かになるように配慮する | VOCA (予め録音しておく) |
| 肢体不自由 理解はあるが発語が不明瞭 | 授業中 | ・自分の思いを表現し相手に伝わることを経験する | ◎人、食べ物、遊具、場所などのページを開いて、対象を指さしながら話す ○本人の関心のあることを話題にし、返事がしやすいように配慮する | コミュニケーションブック (携帯型) |



コミュニケーションブックの例



VOCAの例

Q 4-16 社会性を育むための工夫を教えてください

障害のある子どもたちの中には、その場の状況や、相手の気持ちを考えることが苦手な子がいます。

参考文献

SST絵カード(59)

例えば、交流学習の場面です。『みんなが並んでいる中を追いこして、先生に見てもらおうとするため、並んでいる子が怒っています。また、ある子は消しゴムを忘れて、勝手に友達のものを使うため、その友達が嫌がっています。みんなで楽しくゲームをしている場面では、自分が負けそうになると「もうやめる」と言ってやめようとし、ゲームが続きません。』

これらの行動は、決してふざけて行っているのではありません。どう振る舞えばよいかわからないからです。このような行動の多い子どもたちには、その都度あるいは特別に場面を設定して、何度も教えていく必要があります。